

山田町の浦島太郎ものがたり

大震災で被災、横浜で避難生活を過された

浦辺 利広 (2016年3月)



昔話の浦島太郎、浦島太郎は助けた亀と海の中へ、竜宮城・乙姫様との物語でした。何と言っても話しの終わりに「明けたらダメよ」と言われた玉手箱を開けてしまって・・・チョン！

玉手箱は現代のパンドラの箱「原発」なのかなあ・・・少し言い過ぎですかねえ。そうそうもう一つ、それに防潮堤は何だっただろう・・・？東日本大震災で全てを失った私達は、震災約一か月後に神奈川県は横浜に流れ着いたのです。

この初めての地は、それは竜宮城にでも居る気持ちでした。横浜も大なり小なり被害はあったようですが「フーン、そうだったんだ」と自分達の被害を基準に考えてしまう、今思えば本当に恥ずかしい心の持ち方でした。身体だけではなく心も疲れきっていたのですね。

3. 11あの日、数秒前まで何のこともなく、毎日平穏無事な生活。心配事と言えば病気と車・船の事故位のことでしょうか。それが大地震で激変です。想像を絶する体験・・・、人が作ったものへの甘さと過信、人と人との関係が垣間見える「おそましさやおどろおどろした光景」。

それでも横浜の街は物が溢れ、お金さえあれば何でも買える感じが否めませんでした。

あの震災は何だったんだろう・・・？ そんな時新聞記事で「防災塾・だるま」を見つけたのです。あれから4年7か月、荏本先生・奥様をはじめ、池田さん・中島さん・高松さん、名前を挙げきれない大勢のだるまメンバー、多くの方々にお世話になりました。その間に阪神淡路大震災の話、だるまの立上げ、一つ一つの積み重ね、そして行政ではできないボランティアの強さとありがたさ、いろいろな勉強をさせていただき、感謝の気持ちが大きくなっていったのでした。

阪神淡路は21年経ちました、東日本大震災は5年です。この5年は「まだなのか」「もうなのか」は人それぞれで私には解りませんが、これから関東周辺での大地震・自然災害のことを考えると不安でたまりません。災害は経験したものにしか解らない、それぞれの事柄が一杯ありました。でも震災の話になると、私も他の人たちも机上の空論になってしまいます。要は「たら・れば」の話です。5年も過ぎた私たちの小さな町でさえ、未来が見えてこないのです。

そんな中でも、だるまの皆さんには「先ず隗より始めよ」「継続は力」、ことわざの如く「防災塾・だるま」活動を続けてほしい気持ちです。

最後に東北の誰ともわからない私達の面倒を見ていただき、物質的にも助けていただいたのはあなた達です。だるまの皆さんが居なければ私達家族は野となり山となり・・・どうなっていたか解りません。今回「防災塾・だるま」が10年になるので、浦島さん何か書いてねと言われ、快く引き受けさせていただきました。10周年おめでとうございます。本当にありがとうございました。「感謝、感謝、感謝」あるのみです。

玉手箱と開けた浦島太郎が、その後どうなったかはわかりませんが、現在の「浦辺太郎さん」もどうなっていくかわかりません。所詮、最後も「自助・自助・自助」なのではないでしょうか。